

2
「口モ」
聖徒伝 108

「主の 懲らしめを 嫌うな」

列王記第一 2章

ソロモン王の最初の試練

アウトライン

0. イントロダクション

I. ダビデの遺言 2章1～12節

II. アドニヤの謀略 2章13～25節

III. 反逆者たちの末路 2章26～46節

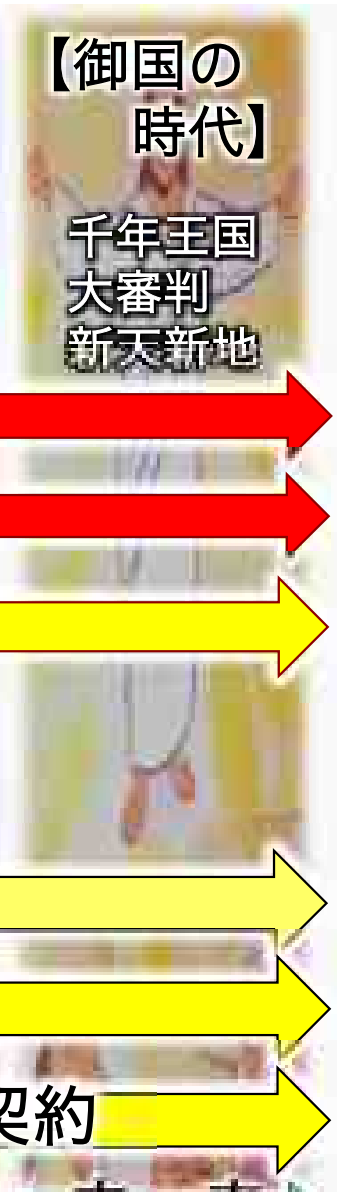
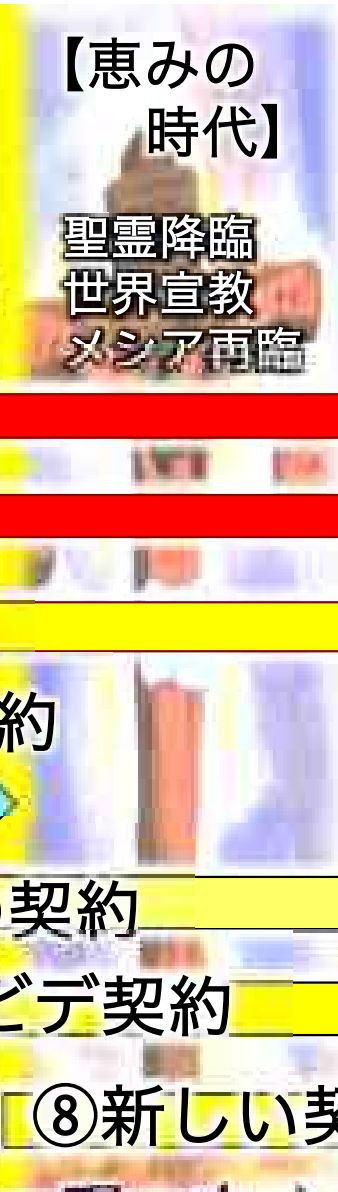
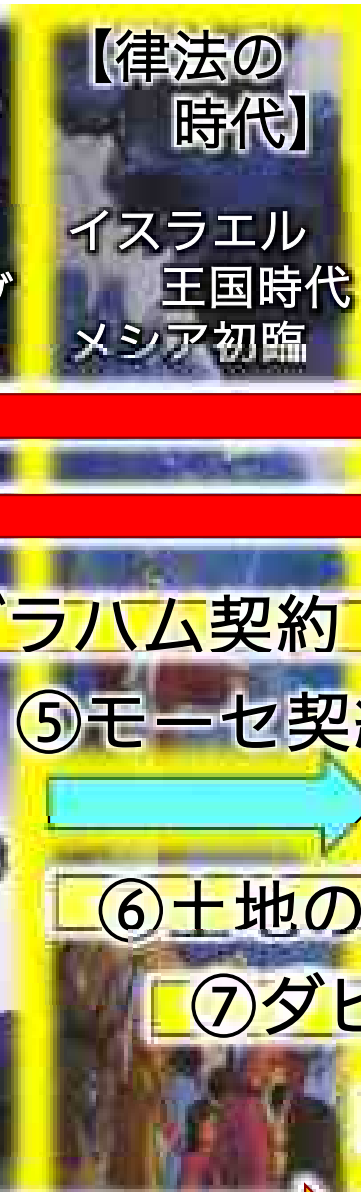
IV. まとめと適用

厳正な神の裁きの現実に

救いの約束を確認しよう



神殿西壁と角笛



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

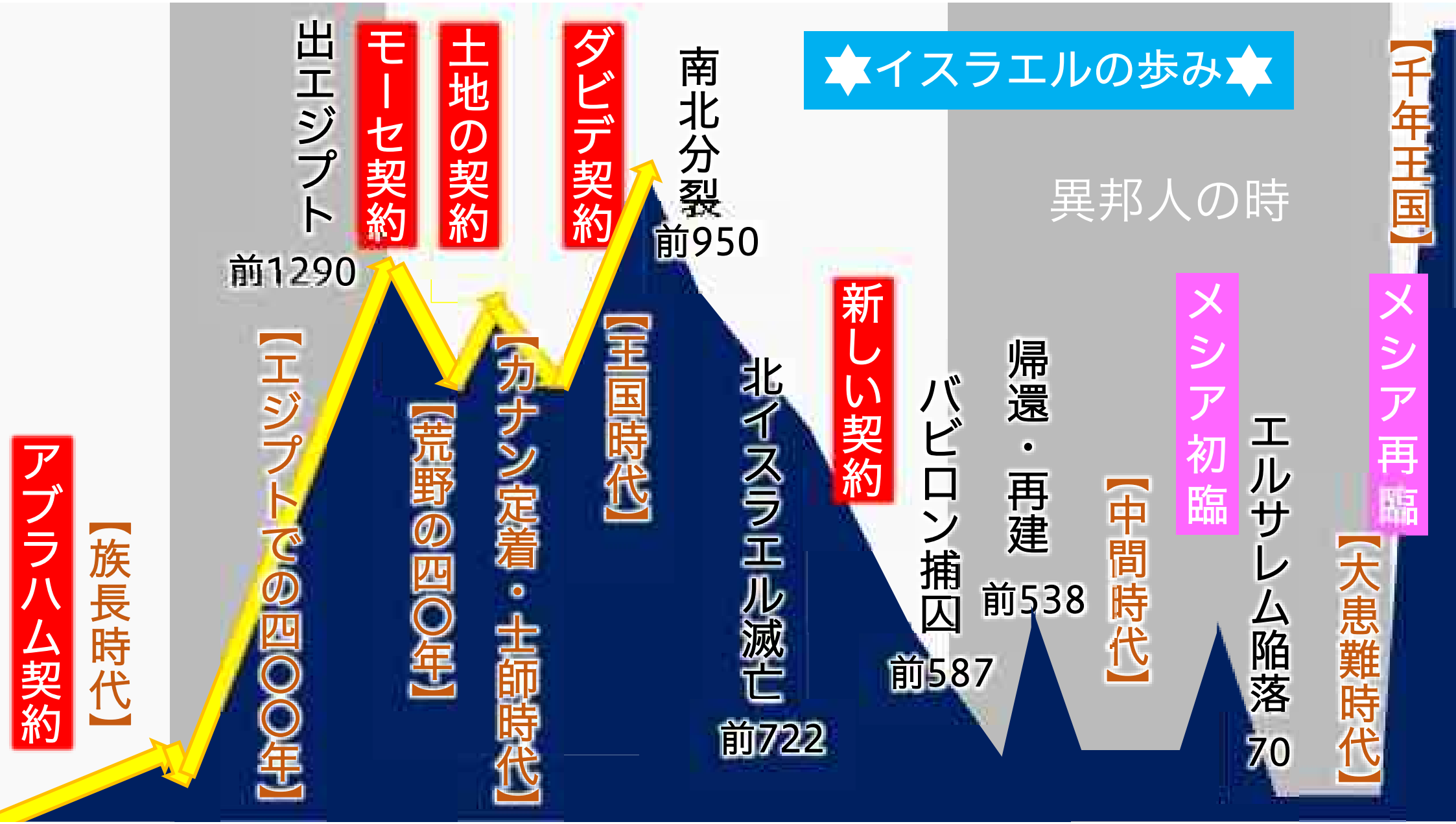
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



列王記とは？

- 署名 …ヘブル語で、「メラヒーム(王たち)」 = 列王記
- 著者 …不明。エレミヤ？ エズラ？ エゼキエル？
バビロン捕囚の頃の預言者か。
- 構成 …本来、第一と第二で一つの書。七十人訳で分割。
※長過ぎるので分冊に。 羊皮紙➡パピルス紙に変更？
内容で分けられたのではない。➡区切りは中途半端。
- 内容 …サムエル記の続編。
歴史からの教訓を後世のイスラエルに遺すもの。

列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ	
	2〜13章	預言者エリシャ		ホセア	
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			

★北王国は10王朝に19人の王
★南王国は1王朝に20人の王

即位	1章	アドニヤの謀反 ナタンの忠告 動いたダビデ ソロモンの即位
基盤固め	2章	ダビデの遺言・死 アドニヤの陰謀・死 ヨアブの死 シムイの処刑
知恵	3章	ギブオンでのいけにえ 神の応答 ソロモンの願い ソロモンの裁き
繁栄	4章	ソロモンの政権 行政区 王国の繁栄 ソロモンの知恵
神殿建設	5～8章	職人、労働者 神殿の構造 祭具の構造 神殿の完成 神殿奉獻
名声	9～10章	ソロモンへの神の約束 建設事業 その他の業績 シェバの女王 栄華
背教と死	11章	ソロモンの背教 神の裁き 外的の出現 内的の台頭 ソロモンの死

イスラエルの王の系譜

サウル～ダビデ～ソロモン

- 神の時ではなかったが、民の希望で立てられたのが、**サウル王**。主に背き、王権を剥奪された。苦闘の末、ペリシテ人に討たれた。
- 羊飼いいエッサイの8番目の子**ダビデ**を、神は王に定め油注いだ。武勇で名を馳せるが、**サウル**に嫉まれ、荒野で逃亡生活を送った。
- **サウル**亡き後、王となった**ダビデ**は、周辺国を平定。**エルサレム**を都とし、**神殿**の設計図を記し、建材を準備した。
- 衰えた**ダビデ**の隙を突いて四男**アドニヤ**が王座を狙ったが、陰謀を知った**ダビデ**は奮い立ち、ただちに**ソロモン**を即位させた。



祭司 ツアドク



ソロモン王



新・将軍 ベナヤ



預言者
ナタン



シムイ

アドニヤ



王に成り損ねた



元・将軍
ヨアブ



祭司
エビヤタル



I. ダビデの遺言

I 列王記2章1～12節

後代に作られたダビデの墓

【ダビデの促し】 | 列王記2:1～2

ダビデの死ぬ日が近づいたとき、彼は息子のソロモンに次のように命じた。

「私は世のすべての人が行く道を行こうとしている。あなたは強く*、男らしく*ありなさい。」

*勝ち、勇気を持ち、堅く、保ち、耐え…。

*「男(人)であれ」

➡神が造られ、神に選ばれ、神を信じた、

本来あるべき、一人の人として歩みなさい。

■ソロモンに信仰者としての歩みを促すダビデ。



【モーセの律法とダビデ契約】 | 列王記2:3~4

あなたの神、【主】への務めを守り、**モーセの律法の書**に書かれているとおりに、主の掟と命令と定めとさとしを守って主の道に歩みなさい。あなたが何をしても、どこへ向かっても、栄えるためだ。

そうすれば、【主】は**私についてお告げになった約束**を果たしてくださるだろう。すなわち『もし、あなたの息子たちが彼らの道を守り、心を尽くし、いのちを尽くして、誠実にわたしの前に歩むなら、あなたには、イスラエルの王座から人が断たれることはない』

- ソロモン王に求められるのは、**律法**を遵守すること。**ダビデ契約**が、ソロモン王の歩みを守り、導く。



【非道な将軍ヨアブの扱い】 | 列王記2:5~6

また、あなたは**ツェルヤの子ヨアブ**が私にしたこと、すなわち、彼がイスラエルの二人の軍の長、ネルの子アブネルとエテルの子アマサにしたことを知っている。ヨアブは彼らを虐殺し、平和なときに戦いの血を流し、自分の腰の帯と足のくつに戦いの血をつけたのだ。だから、あなたは自分の知恵にしたがって行動しなさい。彼の白髪頭を安らかによみに下らせてはならない。

- 優れた将だった**ヨアブ**だが、自らの座に固執し、己の権力を脅かした二人を、騙し討ちで殺した。



【恩人バルジライの子らの扱い】 | 列王記2:7

しかし、**ギルアデ人バルジライ**の子たちには恵みを施してやり、彼らをあなたの食卓に連ならせなさい。彼らは、私があなたの兄弟アブサロムの前から逃げたとき、私の近くに来てくれたのだから。

- ヨルダン川東岸の富者だった老**バルジライ**は、都落ちしたダビデの一行を手厚く援助した。
- 共に都に上ろうというダビデの誘いを固辞したが、息子たちが王の食卓につく名誉にあずかった。

(Ⅱサムエル19:31～)



【王を呪ったシムイの扱い】 | 列王記2:8~9

また、あなたのそばに、バブリム出身のベニヤミン人ゲラの子**シムイ**がいる。彼は、私がマハナムに行ったとき、非常に激しく私を呪った。だが、彼は私を迎えにヨルダン川に下って来たので、私は【主】にかけて、『おまえを剣で殺すことはない』と彼に誓った。

しかし今は、彼を咎のない者としてはならない。**あなたは知恵の人だから**、どうすれば彼の白髪頭を血に染めてよみに下らせられるかが分かるだろう。」

- サウル王と同族のベニヤミン出身のシムイは、都落ちするダビデに石を投げ、激しく執拗に呪った。

ソロモンの知恵を
買っていたダビデ



【ダビデの死】 | 列王記2:10~12

こうして、ダビデは先祖とともに眠りにつき、ダビデの町に葬られた。ダビデがイスラエルの王であった期間は**四十年***であった。ヘブロンで七年治め、エルサレムで三十三年治めた。

ソロモンは父ダビデの王座に就き、その王位は確立した。

***イスラエルの荒野放浪の40年にも重なる。**

■ 戦いに明け暮れ、苦難に満ちたダビデの生涯。
礼拝者としての歩みを、主が守り、導かれた。



ダビデの賛歌 詩篇90篇12~17節

90:12 どうか教えてください。自分の日を数えることを。

そうして私たちに知恵の心を得させてください。

90:13 帰って来てください。【主】よいつまでなのですか。

あなたのしもべたちをあわれんでください。

90:14 朝ごとにあなたの恵みで 私たちを満ち足らせてください。

私たちのすべての日に 喜び歌い楽しむことができるように。

ダビデの賛歌 詩篇90篇12~17節

90:15 どうか喜ばせてください。

私たちが苦しめられた日々と わざわいにあった年月に应じて。

90:16 みわざをあなたのしもべらに

ご威光を彼らの子らの上に現してください。

90:17 私たちの神 主の慈愛が私たちの上にありますように。

私たちのために 私たちの手のわざを確かなものにしてください。

どうか私たちの手のわざを確かなものにしてください。



II. アドニヤの謀略 | 列王記1章13～25節

朝日に照らされるダビデの町

【アドニヤの来訪】 | 列王記2:13

あるとき、ハギテの子**アドニヤ**がソロモンの母バテ・シェバのところに来て来た。バテ・シェバは「平和なことでは来たのですか」と尋ねた。彼は「平和なことでは」と答えて、さらに言った。「お話ししたいことがあるのですが。」すると彼女は言った。「話してごらんなさい。」

- 異母兄弟の**アドニヤ**がソロモンの母を訪問。
- ダビデの忠臣を籠絡させたのがアドニヤ。
→ 王の老母を安心させ、巧みに引き込んでいく。

籠絡(起) 安心させる



【アドニヤの願い】 | 列王記2:15~16

彼は言った。「ご存じのように、王位は私のものでしたし、イスラエルはみな私が王になるのを期待していました。それなのに、王位は転じて、私の弟のものとなりました。【主】によって*彼のものとなったからです。今、あなたに一つのお願いがあります。断らないでください。」バテ・シェバは彼に言った。「話してごらんなさい。」

*主の介入がなければ、王位は自分のものだった？

■不遜極まりないアドニヤの詭弁だが、確信的に断言する者に、人は強く惹かれる側面がある。



籠絡(承) 強弁する

【アドニヤの頼み】 | 列王記2:17~18

彼は言った。「どうかソロモン王に頼んでください。あなたからなら断らないでしょうから。王がシュネム人の女アビシャグを、私に妻として与えてくださるように*。」

そこで、バテ・シェバは「いいでしょう。私から王にあなたのことを話します」と言った。

*王の側女を妻とする → 王の権威を得る

例) 父ヤコブの側女と寝たルベン。

■ あからさまなアドニヤの王位への野心をバテ・シェバが気づかなかったはずはない。



籠絡(転) 些細な願いと
思わせる

【王に謁見するバテ・シェバ】 | 列王記2:19

バテ・シェバは、アドニヤのことを話すために、ソロモン王のところに行った。王は立ち上がって彼女を迎え、彼女に礼をして、自分の王座に座った。王の母のために席が設けられ、彼女は**王の右**に座った。

*王の右の座 → 王と同等の権威を指す

■ 母に最高の形で敬意を示すソロモン王。

→ 権威が、バテ・シェバの罨となっていないか。

■ アドニヤの申し出を受ける時点でどうかしている。

→ 典型的な母親の子に対する支配欲の現れでは？

籠絡(決) 従わせる



【バテ・シェバの願い】 | 列王記2:20

彼女は言った。「あなたに一つの小さなお願い*があります。断らないでください。」王は彼女に言った。「母上、その願い事を聞かせてください。断ることはしませんから。」


*この時点で嘘。王位を脅かす重大な願い。

■自分の願いを聞かせることで満たす**支配欲**がある。

この場合、願いそのものは、さして重要ではない。

→相手に願いを聞かせ、従わせることが目的。

■アドニヤは巧みにバテ・シェバの弱みを突いた。



支配欲の
目的は支配
そのもの

【ソロモンの答え】 | 列王記2:21～22

彼女は言った。「シュネム人の女アビシャグを、あなたの兄アドニヤに妻として与えてやってください。」

ソロモン王は母に答えた。「なぜ、アドニヤのためにシュネム人の女アビシャグを願うのですか。彼は私の兄ですから、彼のためには王位を願ったほうがよいではありませんか。彼のためにも、祭司エブヤタルやツェルヤの子ヨアブのためにも。」

■ 瞬時に、母の願いの背景を悟ったソロモン王。

アドニヤと、背後で共謀している者たちの存在も。



【アドニヤの末路】 | 列王記2:23～25

ソロモン王は【主】にかけて次のように誓った。
「アドニヤがこういうことを言ってもなお自分のいのちを失わなかったなら、神がこの私を幾重にも罰せられるように。」

【主】は生きておられる。主は私を父ダビデの王座に就かせて、私を堅く立て、約束どおり私のために家を建ててくださった。アドニヤは今日殺されなければならない。」

こうしてソロモン王は、エホヤダの子ベナヤを遣わしてアドニヤを討ち取らせたので、彼は死んだ。

■ 「策士、策に溺れる」自ら死を招いたアドニヤ。





III. 反逆者たちの末路

I 列王記2章26～46節

エルサレム旧市街の城壁

【エブヤタルの追放】 | 列王記2:26～27

それから、王は祭司エブヤタルに言った。「アナトテの自分の地所に帰れ。おまえは死に値する者だが、今日はおまえを殺さない。おまえは私の父ダビデの前で【神】である主の箱を担ぎ、父といつも苦しみをともにしたからだ。」

こうして、ソロモンはエブヤタルを【主】の祭司の職から追放した。シロで**エリ**の家族について語られた【主】の**ことば***は、こうして成就した。

*祭司**エリ**の息子たちの罪ゆえ、エリの子孫の系譜が絶たれると預言されていた。(1サム3:13)



【逃げたヨアブ】 | 列王記2:28～29

この知らせがヨアブのところに伝わった。ヨアブはアブサロムにはつかなかったが、アドニヤについていたのである。ヨアブは【主】の天幕に逃げ、祭壇の角をつかんだ。

ソロモン王に「ヨアブが【主】の天幕に逃げて、今、祭壇の傍らにいる」という知らせがあった。するとソロモンは、「行って彼を討ち取れ」と命じて、エホヤダの子ベナヤを遣わした。

- 共謀していた元将軍ヨアブを討ち取るため、新将軍ベナヤが遣わされた。



【王の命令】 | 列王記2:30~31

ベナヤは【主】の天幕に入って、彼に言った。「王がこう言われる。『外に出よ。』」彼は「いや、ここで死ぬ」と言った。ベナヤは王にこのことを報告した。「ヨアブはこう私に答えました。」

王は彼に言った。「彼が言ったとおりにせよ。彼を討ち取って葬れ。こうして、ヨアブが理由もなく流した血の責任を、私と、私の父の家から取り除け」

■ 祭壇で討たれて死ぬことを望んだヨアブ。

任務への忠実さと、役職に固執する余りの残虐さ。

矛盾するヨアブの性質をよく物語っている？



【ヨアブの罪】 | 列王記2:32~33

「【主】は、彼が流した血を彼の頭に注ぎ返される。彼は自分よりも正しく善良な二人の者に討ちかかり、剣で虐殺したからだ。彼は私の父ダビデが知らないうちに、イスラエルの軍の長である、ネルの子アブネルと、ユダの軍の長である、エテルの子アマサを虐殺したのだ。

二人の血は永遠にヨアブの頭と彼の子孫の頭に注ぎ返され、ダビデとその子孫、および、その家と王座には、とこしえまでも【主】から平安があるように」

■ヨアブに最後に返された、重い罪の刈り取り。



【反逆者たちの末路】 | 列王記2:34~25

エホヤダの子ベナヤは上って行き、彼を打って殺した。ヨアブは荒野にある自分の家に葬られた*。

王はエホヤダの子ベナヤを彼の代わりに軍団長とした。また、王は祭司ツアドクをエブヤタルの代わりとした。

*葬りは、恩寵の現れ。王による恩赦。

➔ヨアブは、ダビデの甥であり、
将軍として多くの戦功も立て、ダビデを支えた。

アドニヤ側



元将軍
ヨアブ

元祭司
エブヤタル

ソロモン側



将軍
ベナヤ

祭司
ツアドク

【シムイとの約束】 | 列王記2:36～38

王は人を遣わしてシムイを呼び寄せ、彼に言った。
「エルサレムに自分の家を建て、そこに住むがよい。
だが、そこからどこへも出てはならない。

出て行ってキデロンの谷*を渡った日には、おまえは
必ず死ななければならないと覚悟しておけ。おまえの
血の責任はおまえ自身の頭上に降りかかるのだ。」

シムイは王に言った。「よろしゅうございます。しも
べは王様のおっしゃるとおりにいたします。」このよ
うにしてシムイは、何日もの間エルサレムに住んだ。

*エルサレムの東の谷。その向こうがオリーブ山。



エルサレム

ギホンの泉

キデロンの谷

【シムイの罪】 | 列王記2:39～40

それから三年たったころ、シムイの二人の奴隷が、ガテの王マアカの子アキシユのところへ逃げた*。シムイに「あなたの奴隷たちが今、ガテにいる」という知らせがあったので、シムイはすぐ、ろばに鞍を置き、奴隷たちを捜しにガテのアキシユのところへ行った。シムイは行って、奴隷たちをガテから連れ戻した。

*主人シムイの奴隷に対する扱いの結果。

■莫大な負債を免除されながら、人に貸した小さな借金を取り立てた男のたとえ。

マタイ18:23



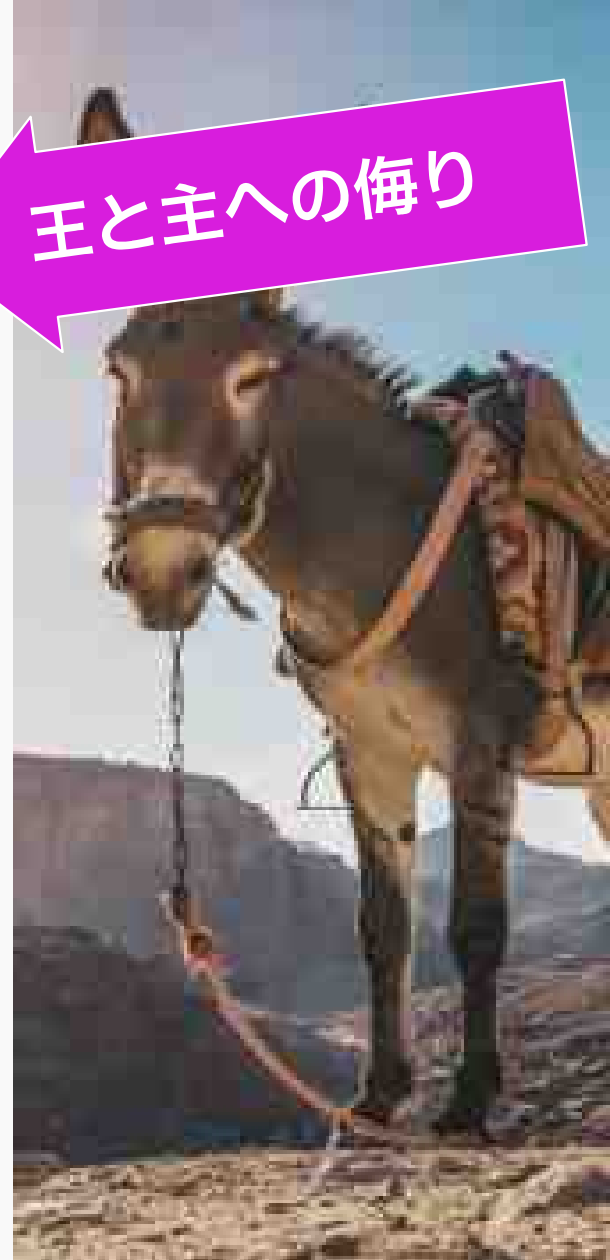
【ソロモンの問い】 | 列王記2:41～43

シムイがエルサレムからガテに行って帰って来たことが、ソロモンに知らされた。

すると、王は人を遣わし、シムイを呼び出して言った。「私はおまえに、【主】にかけて誓わせ、『おまえが出て、どこかへ行った日には、おまえは必ず死ななければならないと覚悟しておけ』と警告しておいたではないか。すると、おまえは私に『よろしゅうございます。従います』と言った。

それなのになぜ、【主】への誓いと、私がおまえに命じた命令を守らなかったのか。」

王と主への悔り




【シムイの死】 | 列王記2:44～46

王はまたシムイに言った。「おまえは心の中で、自分が私の父ダビデに対して行ったすべての悪をよく知っているはずだ。【主】はおまえの悪をおまえの頭に返される。

しかし、ソロモン王は祝福され、ダビデの王座は【主】の前でとこしえまでも堅く立つ。」

王はエホヤダの子ベナヤに命じた。ベナヤは出て行ってシムイを討ち取り、シムイは死んだ。こうして、王国はソロモンによって確立した*。

*反逆者たちの自滅によって、はからずしも。



真実の悔い改めは
なかった



IV. まとめと適用

厳正な神の裁きの現実に
救いの約束を確認しよう

オリーブ山からエルサレムを臨む

【ソロモン王が直面した人の罪の現実】

- 弁舌巧みに王の母を籠絡したアドニヤ。
- 母親の子への支配欲・独占欲につけ込まれたバト・シェバ。
- 王が即位してもなお、王に背き続けていたヨアブ、エブヤタル。
- 真の悔い改めに至っておらず、己の罪を軽んじたシムイ。

ソロモン王は、即位まもなく、人の罪の現実を目の当たりに!!

【ソロモンに学ぶ、罪に対する現実的対応】

- 反逆者の死に匹敵する重罪を、一度すでにゆるしていたソロモン。ただし、次に悪が見つければ、死ななければならないとも。
- ソロモンは、神との約束、王との約束を意識させ、約束をやぶったその責任を個々に負わせた。➡原則は**モーセの律法**。
- 今の私たちが規範とすべきは、**キリストの律法**。
悔い改めたならば、何度でもゆるすべき。私も主にゆるされたから。
➡しかし、**悔い改めのない者**には、懲戒をくたすべき段階がある。
偽りの教えには、厳しく対処し、決して認めてはならない。

【ソロモンに学ぶ、聖書的父性】

■「男であれ」とダビデに告げられたソロモン。

→聖書が求める父性とは、**約束の遵守**。遵法精神にこそある。

①家長たる父が、**主の約束**に従い、これを守る。→大前提。

②約束の遵守を家族にも求める。

③破った者が悔い改めれば、ゆるす。担うべき責任は、担わせる。

④悔い改めがないならば、段階的に懲らしめを与える。

→**神への約束と責任**が、自立した信仰者を育てていく。

神の愛は、一方的な恵みである約束に基づく愛

■ ソロモンの箴言3章11～12節 ■

わが子よ、【主】の懲らしめを拒むな。その叱責を嫌うな。
父がいとしい子を叱るように、【主】は愛する者を叱る。

【私たちが罪を犯したその時に】

- 私たちの内に住まわれる**聖霊**が、罪を確かに知らせてくれる。
誰の内にも、神の似姿なる**良心**があり、罪の責任は逃れ得ない。
- 気づかされた瞬間に、悔い改められる人は幸いだ。
立ち返り、主に向かって歩み出す者を、主はゆるして迎えられる。
- 言い訳を重ねる自分の思いを手放して、**御声**に心を傾けよう。
正確に**神の意図**を知り、従い行く信仰をこそ、育んでいこう。

悔い改めとゆるしを重ねるほどに、成長させられる信仰がある。

- 「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
 - ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
 - ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

なおも罪をおかす わたしのために、主は悔(く)い改(あらた)めとゆるしの道を与えてくださっています。

気づかされた瞬間(しゅんかん)に、立ち返ることができますように。

どうか私の心をうち砕(くだ)き、柔(やわ)らかくしてください。

あなたの愛が、さらにこの身に染(し)み渡(わた)っていきますように。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」